

## 第23期考古学セミナー（2021年度）

—発掘調査でわかった山形県内の近世城郭と出土遺物—

### 第3回講座

講義⑥

## 亀ヶ崎城跡の発掘調査と出土遺物

（公財）千葉県教育振興財団

高桑 登 氏

令和3年10月17日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室



# 亀ヶ崎城の発掘調査と出土遺物

公益財団法人千葉県教育振興財団 高桑登

## 遺跡の概要と調査成果

### 略年表

- 文明 10 年 (1478) 遊佐太郎繁元が東禅寺城を築く。
- 天正 11 年 (1583) 前森蔵人が城主になる。
- 文禄 2 年 (1593) 甘粕景継が城主になる。
- 慶長 3 年 (1598) 志駄修理亮が城主となる。東禅寺城の整備。
- 慶長 4 年 (1599) 志駄修理亮が城郭を拡張。
- 慶長 5 年 (1600) 慶長出羽合戦。
- 慶長 6 年 (1601) 最上勢による東禅寺城攻撃。志村光安が城主となる。
- 慶長 8 年 (1603) 亀ヶ崎城と改名。城下の町割り、整備。
- 元和 8 年 (1622) 最上氏改易。酒井氏入部。

### 第 4・5 次調査の成果 (山形埋文 2009)

- 1 期 (16 世紀前半) …………… D 区 2 面・B 区堀下層  
掘立柱建物を中心とした居住域と堀 (障子堀か)
- 2 期 (16 世紀中葉) …………… A 区 3 面・B 区堀下層・C 区 2 面・D 区 1 面・E 区 3 面  
居住域が後の本丸部分にも拡大。排水のための溝掘削による地業。
- 3 期 (16 世紀第 4 四半期) …… A 区 2 面・D 区 1 面上層・E 区 2 面  
北側に礎石建物を中心とした居住域。石敷遺構・落ち込み状遺構 (庭か)。
- 4 期 (17 世紀初頭) …………… A 区 1 面・C 区 1 面・B 区・E 区 1 面  
近世の絵図に描かれた堀、土塁が成立。居住域の周囲に廃棄土坑群が分布。

## 特徴的な出土遺物

### 木簡

荷札木簡・容器・遊戯具  
折敷・板等

### 様々な産地の陶磁器

貿易陶磁器・瀬戸美濃・越前  
備前・会津大塚山

### 犬形土製品

### 火縄

### 笏谷石

→中世から近世への移行期を特徴づける遺物

## 引用参考文献

- 高桑登 2008 「山形県酒田市亀ヶ崎城跡出土の備前焼について」『研究紀要』第 5 号 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 高桑登 2011 「山形県酒田市亀ヶ崎城跡出土の犬形土製品について」『さあべい』第 27 号 さあべい同人会
- 高桑登 2014 「山形県酒田市亀ヶ崎城跡出土の「火縄」について」『研究紀要』第 6 号 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 高桑登 2020 「出羽南部の笏谷石製品」『中世・近世における笏谷石製品の流通とその展開』奈良文化財研究所 福井・勝山日本遺産活用推進協議会
- 三上喜孝 2010 「「さたう一斤」と闘茶札―出羽・亀ヶ崎城の贈答と遊戯―」『日本歴史』第 750 号 吉川弘文館
- 三上喜孝 2014 「中近世における砂糖の容器と贈答」『最上氏と出羽の歴史』高志書院
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2009 『亀ヶ崎城跡第 4・5 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 180 集

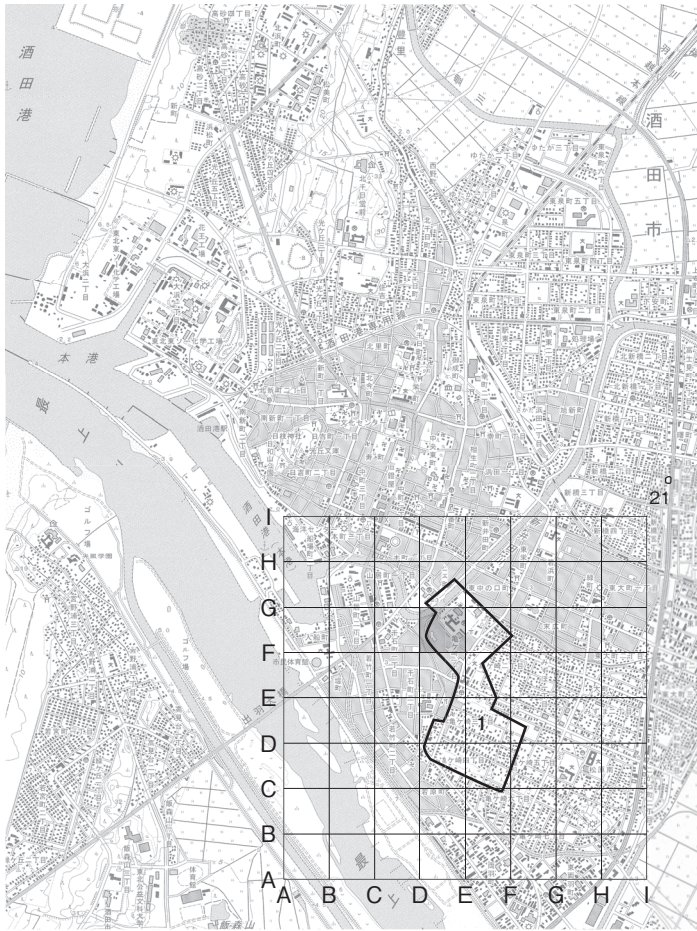


図1 遺跡位置図 (1/50,000)

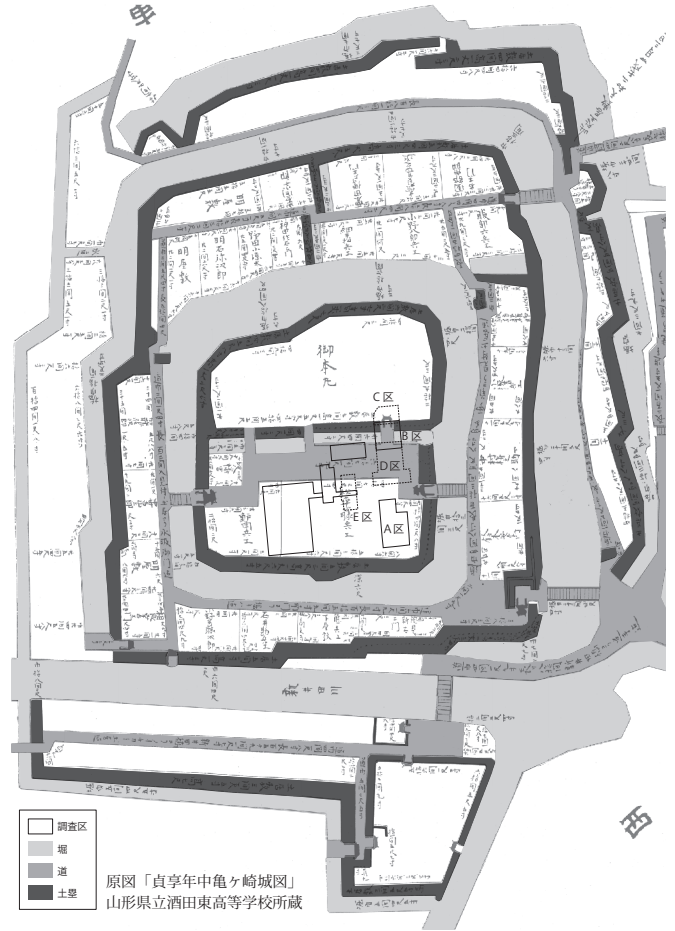


図2 調査区概要図

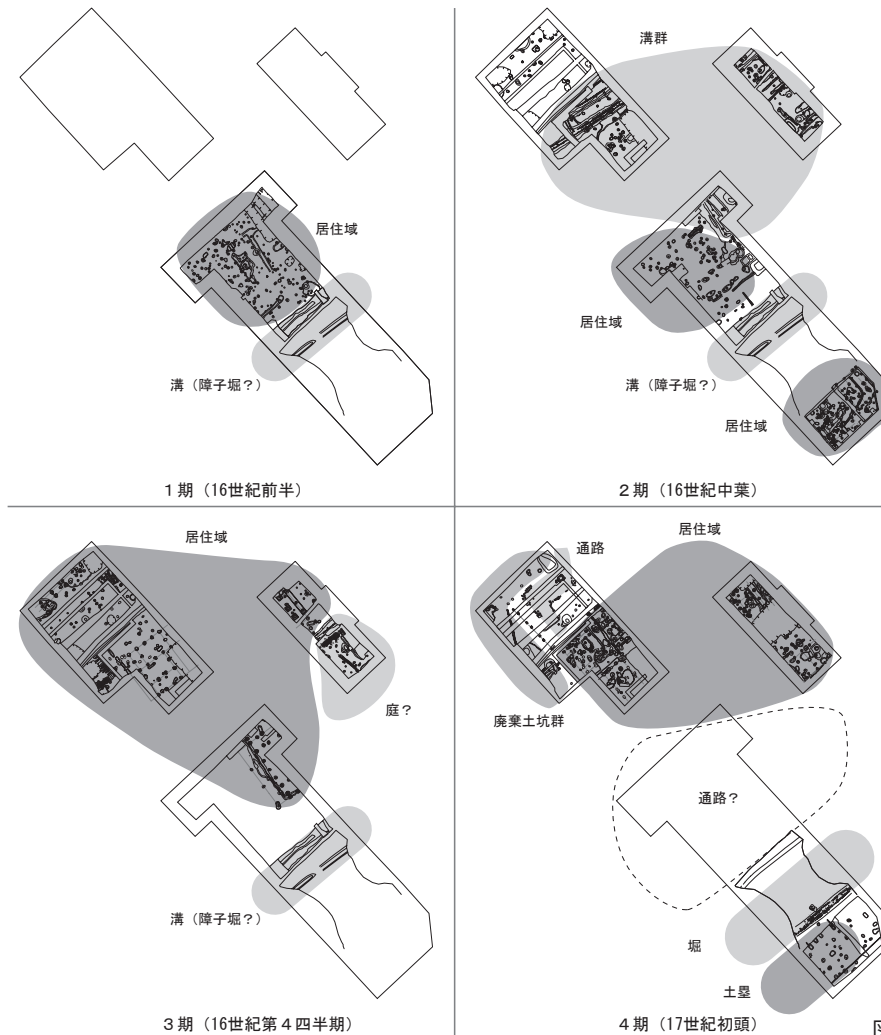
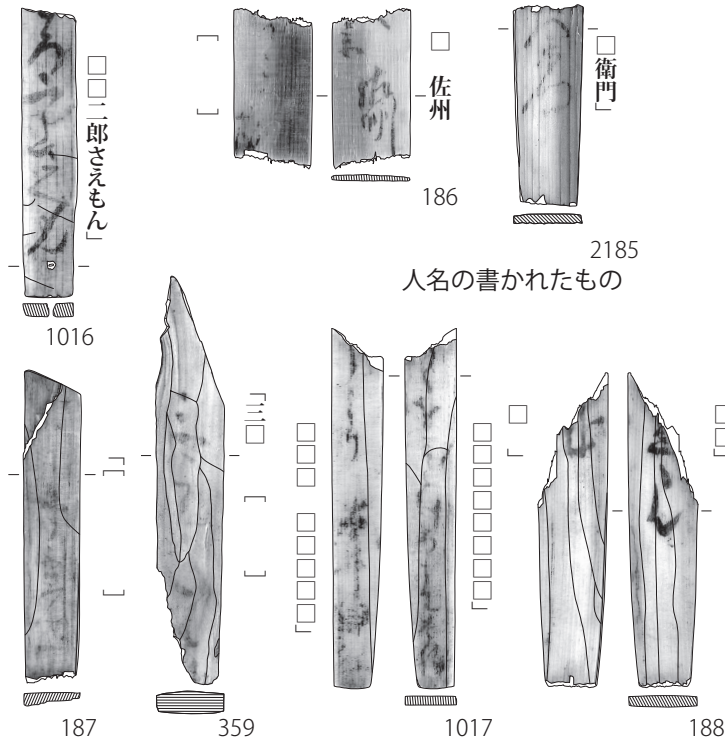


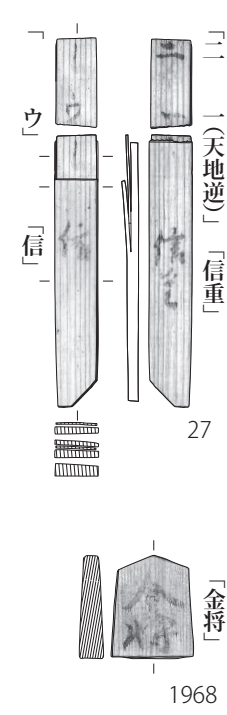
図3 遺構変遷図



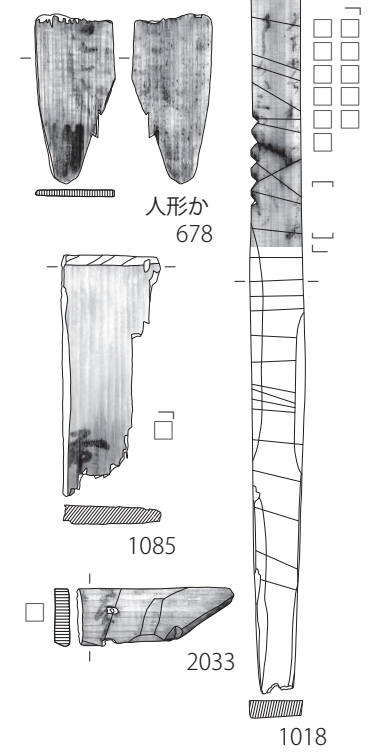
荷札木簡？



遊戯具



その他不明品



転用品に墨書したもの

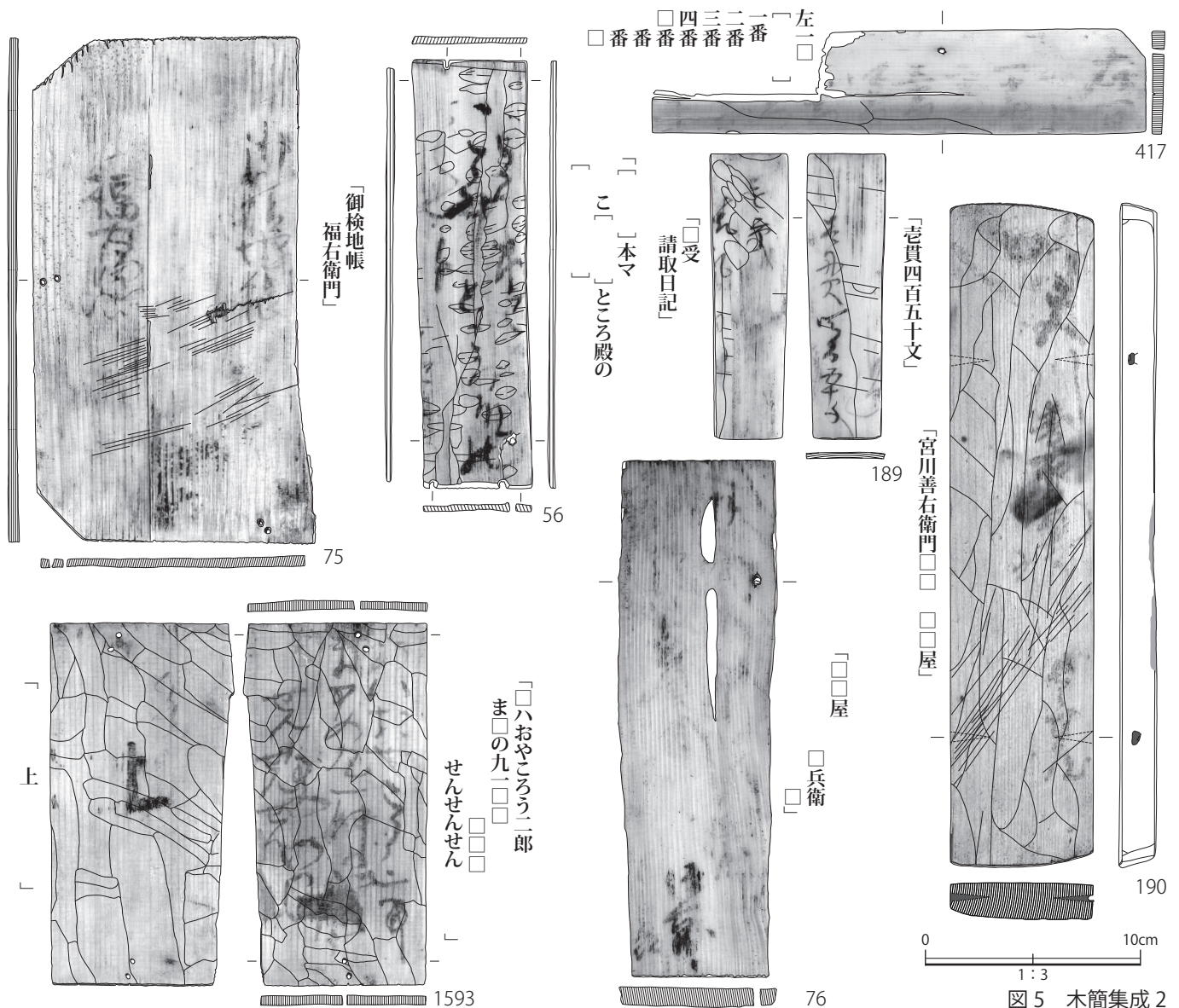


図5 木簡集成2

表 1 木簡観察表

No.	種別	調査区	出土位置	備考
27	鬮茶札	A区1面	4SK0001F9	長 105/幅 17.2/厚 7・長 30/幅 16.2/厚 1 墨書「信重」/「信」・「二 一 (天地逆)」/「ウ」 小片が板状の先端に挿し込まれた状態で出土
45	木簡	A区1面	4SK0016F	長 144/幅 29/厚 7.9 墨書「輪嶋さうめんー□□□ (つつみカ)」/「七月□七日小ま□□ (殿力)」
53	木簡	A区1面	4SK0016F3	長 167.5/幅 31.5/厚 6.2 墨書「なまり玉式千入 百分」/「慶五 七月三日 志駄修理亮殿」
56	板	A区1面	4SK0017F	長 200/幅 54/厚 4 墨書「[ ] 本マ こ [ ] とところ殿の [ ]」
75	折敷	A区1面	4SK0034上層	長 236/幅 [128]/厚 6 墨書「御検地帳 福右衛門」
76	板	A区1面	4SK0034上層	長 240.1/幅 73.3/厚 9 墨書「□□屋 □兵衛 □」
77	板	A区1面	4SK0034上層	長 612/幅 21/厚 8 墨書「長南勘右衛門 (花押)」
186	木簡	A区1面	4SX0104F3	長 [64]/幅 31/厚 2.5 墨書「□ 佐州」裏面風化による墨痕の隆起あり
187	木簡	A区1面	4SX0104F3	長 [143]/幅 20.5/厚 3.5 墨書「□□□□□□□□」/[□□□ □□□□
188	木簡	A区1面	4SX0104F3	長 [125]/幅 28/厚 5 墨書『□□』/『□』
189	折敷	A区1面	4SX0104F3	長 133/幅 36.5/厚 2.8 墨書「老貫四百五十文」/「・□ (是力) 受 請取日記」
190	板	A区1面	4SX0104F3	長 309/幅 67/厚 17 墨書「宮川善右衛門□□ □□屋」竹釘 円板状製品の転用 一部炭化
297	木簡	A区2面	4SX2075F	長 172/幅 27.5/厚 5.5 「□□や」
359	木簡	A区3面	4SD3047F	長 [162]/幅 26.5/厚 9 墨書「三□ [ ]」
360	木簡	A区3面	4SD3047F	長 102/幅 22/厚 3 墨書「三月□ なまり玉千 十六」『二月九日』 上部に穿孔
417	折敷	A区3面	4SD3050F1	長 [230]/幅 [48.5]/厚 6 墨書「左ー□ [ ]」一番 二番 三番 四番 □番 番 番 □
423	木簡	A区3面	4SD3050F	長 119.5/幅 20.7/厚 2.2 墨書「かちか□□□」/「五月廿六日」
563	木簡	A区	FD5345III	長 197.5/幅 24.7/厚 4.5 墨書「たたみをもて」
678	木簡	A区	FD5248IV	長 [67]/幅 31.5/厚 2.5 墨書「[ ]」上下反転で人形か
679	板	A区	FD5744IV	長 402/幅 117/厚 5 墨書「はた かたきぬ 志村伊豆殿様 佐藤九郎右衛門」周囲に釘穴
774	木簡	A区	FD5347V	長 148/幅 33/厚 8.3 墨書「進上 最部 [軍力] □郎との」
814	木簡	A区	FD5743VI直上	長 160/幅 15.8/厚 4.2 墨書「大刀十五 フキ指十五」/「九 [ ] 」スギ
858	木簡	A区	FD5647VI	長 217/幅 26/厚 8.5 墨書「[ ]」
860	板	A区	FD5446VI	長 220/幅 61.5/厚 9.5 墨書「[ ] (酒田力)」/「□□」竹釘 裏面墨痕上に刃物痕多
1016	木簡	A区	FD5842VII	長 [115]/幅 22/厚 5.5 墨書「□□二郎さえもん」
1017	木簡	A区	FD5743VII	長 [124]/幅 22.5/厚 5 墨書「[ ]」
1018	板	A区	FD5841VII	長 [285.5]/幅 21/厚 7 墨書「□□□□□」/「□□□□□□ [ ]」鋸歯状刻み
1060	木簡	A区	FD5470VIII	長 156/幅 28/厚 4 墨書「おちや 」/「 □ 」
1085	板	A区	FD5542IX	長 [96.5]/幅 [39.3]/厚 7 墨書「□」
1086	刻書板	A区	FD5349IX	長 225/幅 36/厚 4 刻書「村井殿 □ 高島」
1593	折敷	D区1面	5SK0023F	長 170/幅 [84.5]/厚 5 墨書「 上 」/「□ハおやころう二郎ま□の九ー□□ □□□せんせんせん」
1968	将棋駒	D区	FD4357VI	長 41/幅 33/厚 9.5 墨書「金将」
2032	木簡	E区2面	5SD2239F	長 82/幅 17/厚 2 墨書「なまり玉千」/「天十二 八月廿一日」
2033	板	E区2面	5SD2239F	長 62/幅 [23]/厚 6 墨書「□」
2185	木簡	E区	FD5856VI	長 [80]/幅 27/厚 3.5 墨書「□衛門」
2306	曲物蓋	E区	FD5561VII	長 90/幅 93/厚 8.8 桜皮 墨書「さたう一斤」

1期 (16世紀前半) : D区2面・B区堀下層

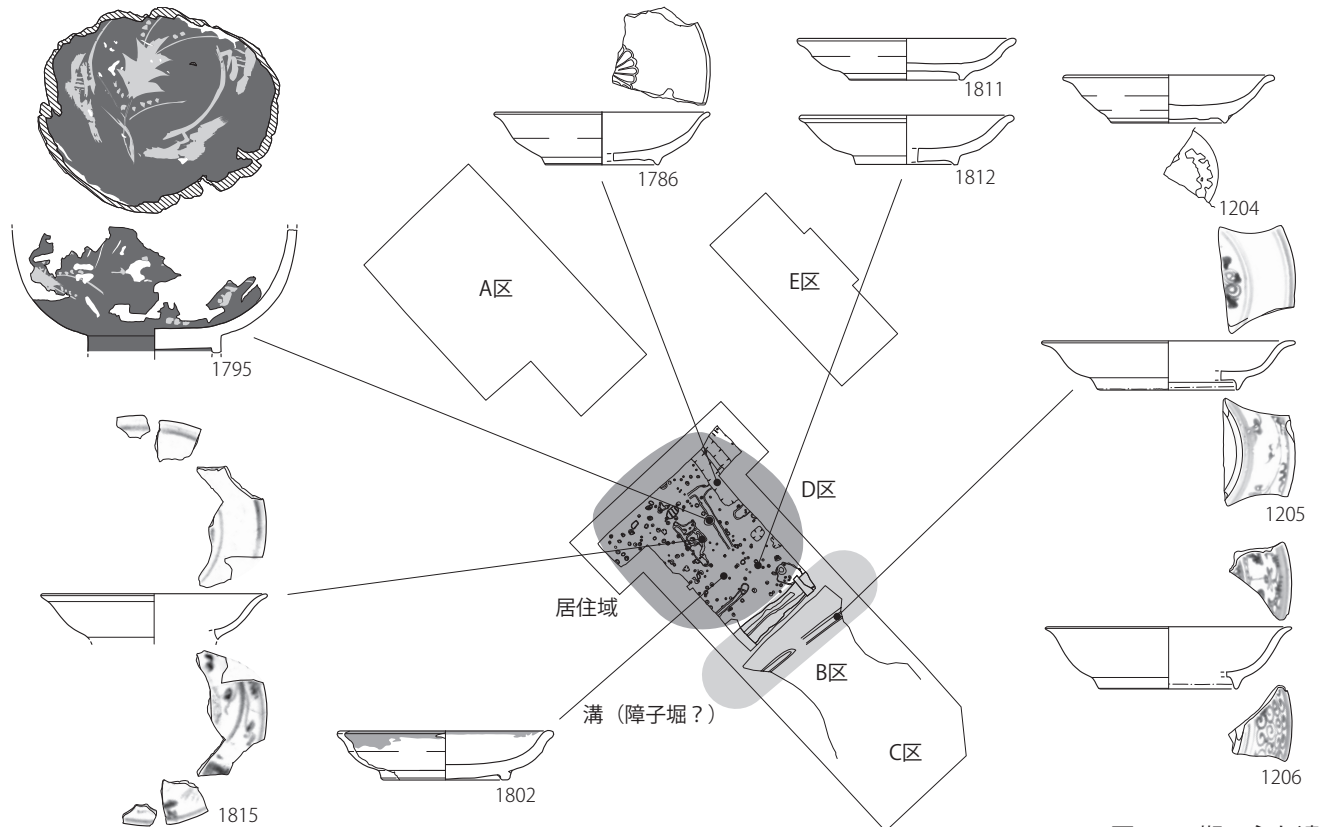


図 6 1期の主な遺物

2期 (16世紀中葉) : A区3面・B区掘下層・C区2面・D区1面・E区3面

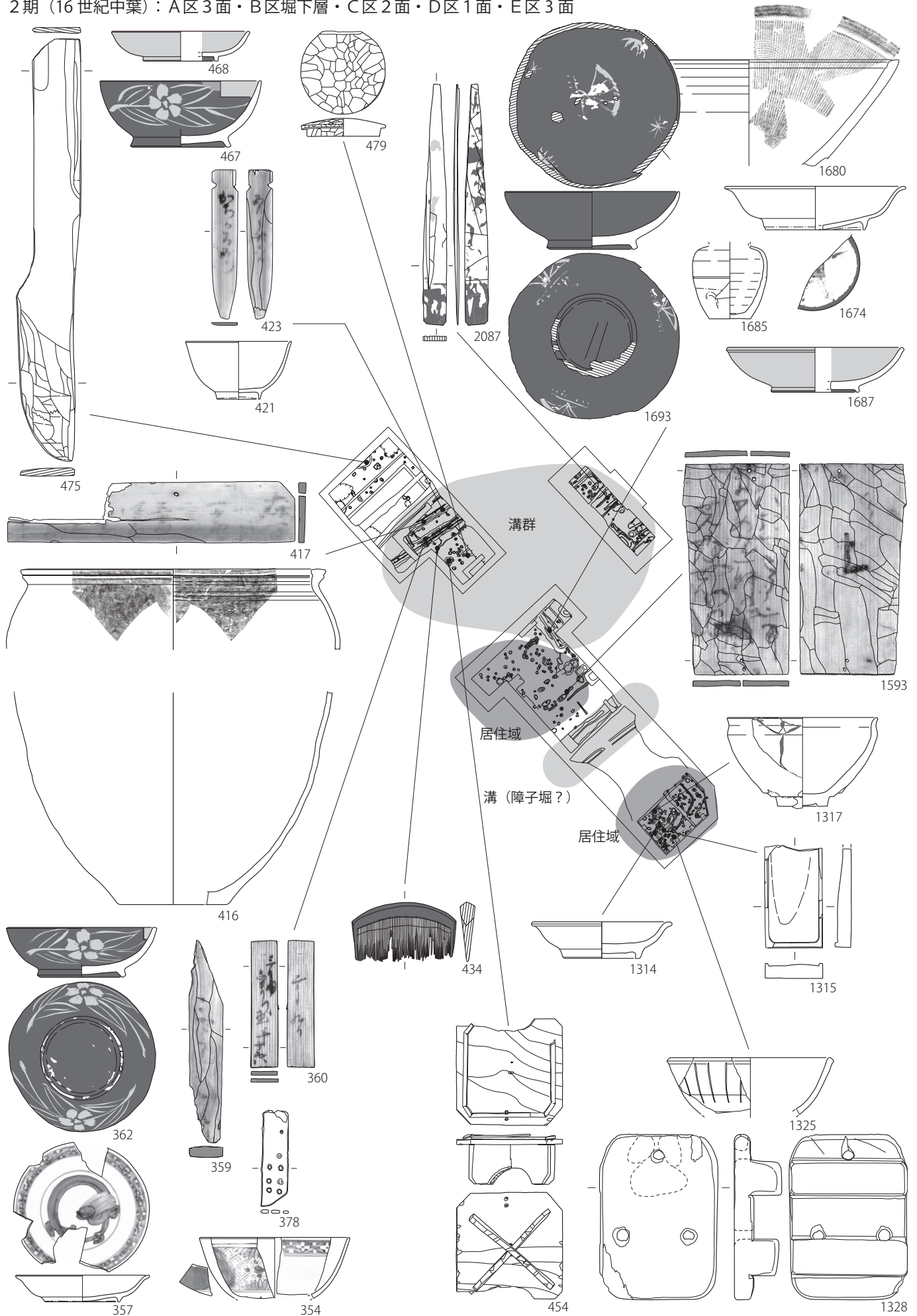


図7 2期の主な遺物

3期 (16世紀第4四半期) A区2面・D区1面上層・E区2面

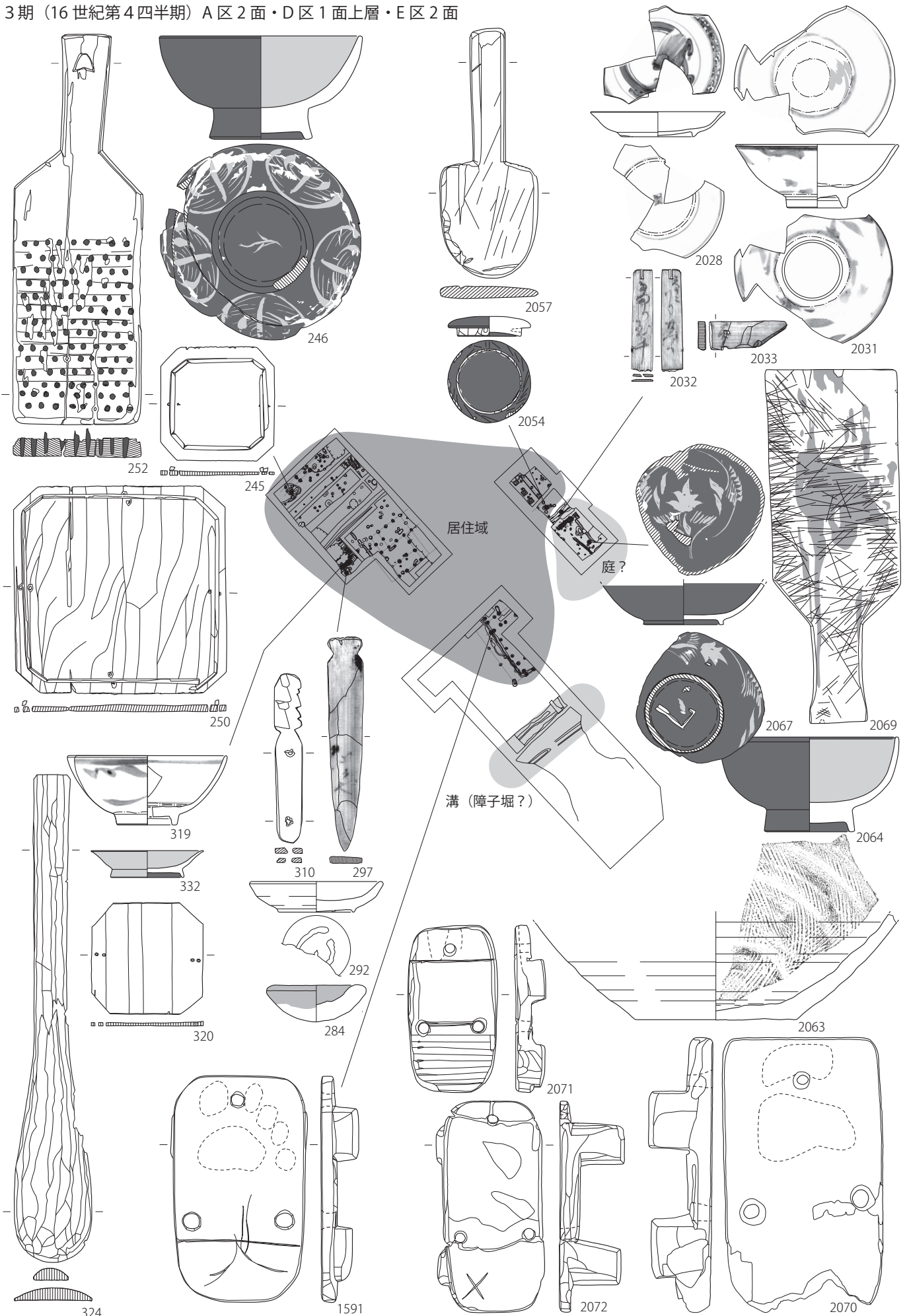


図8 3期の主な遺物

4期 (17世紀初頭) A区1面・C区1面・B区・E区1面

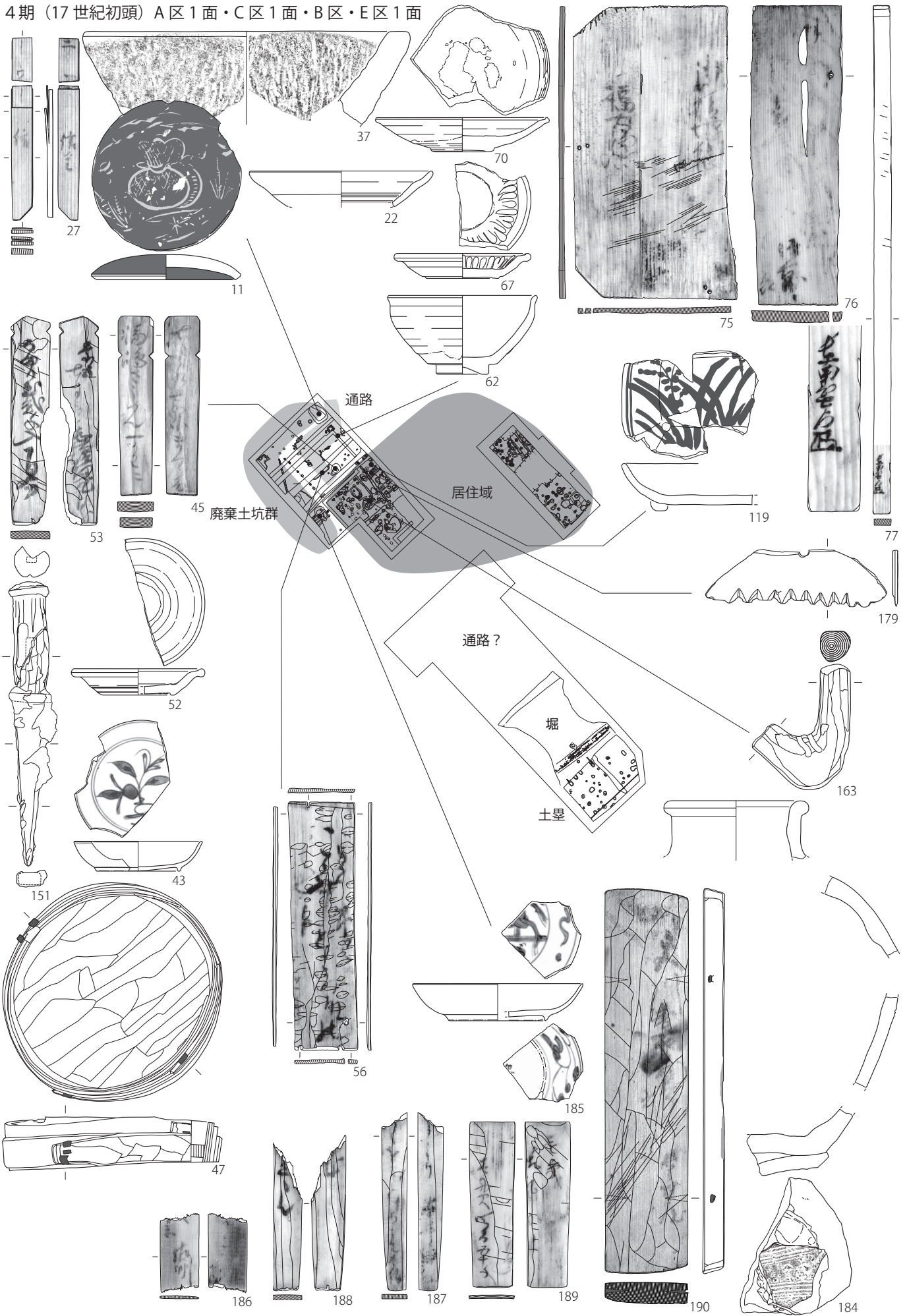


図9 4期の主な遺物

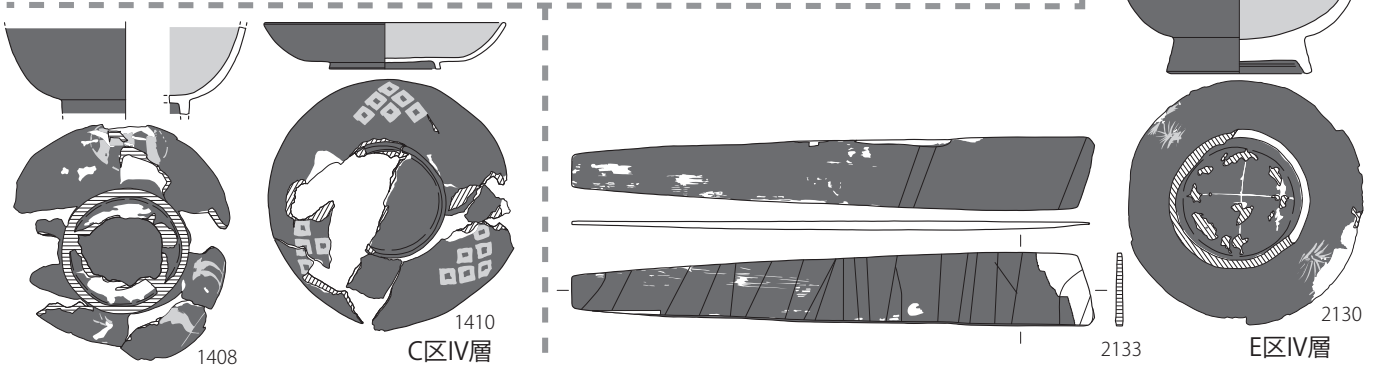
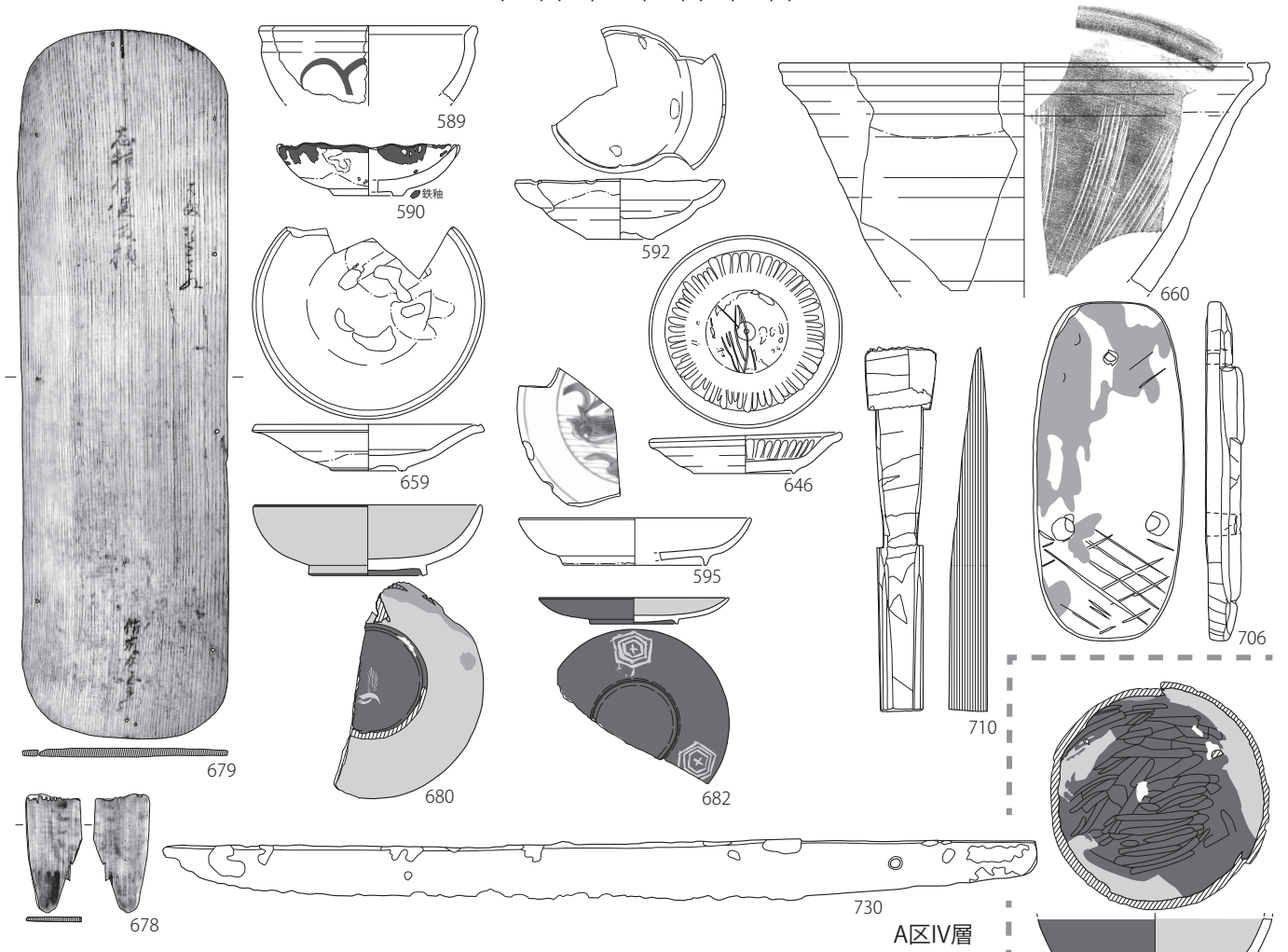
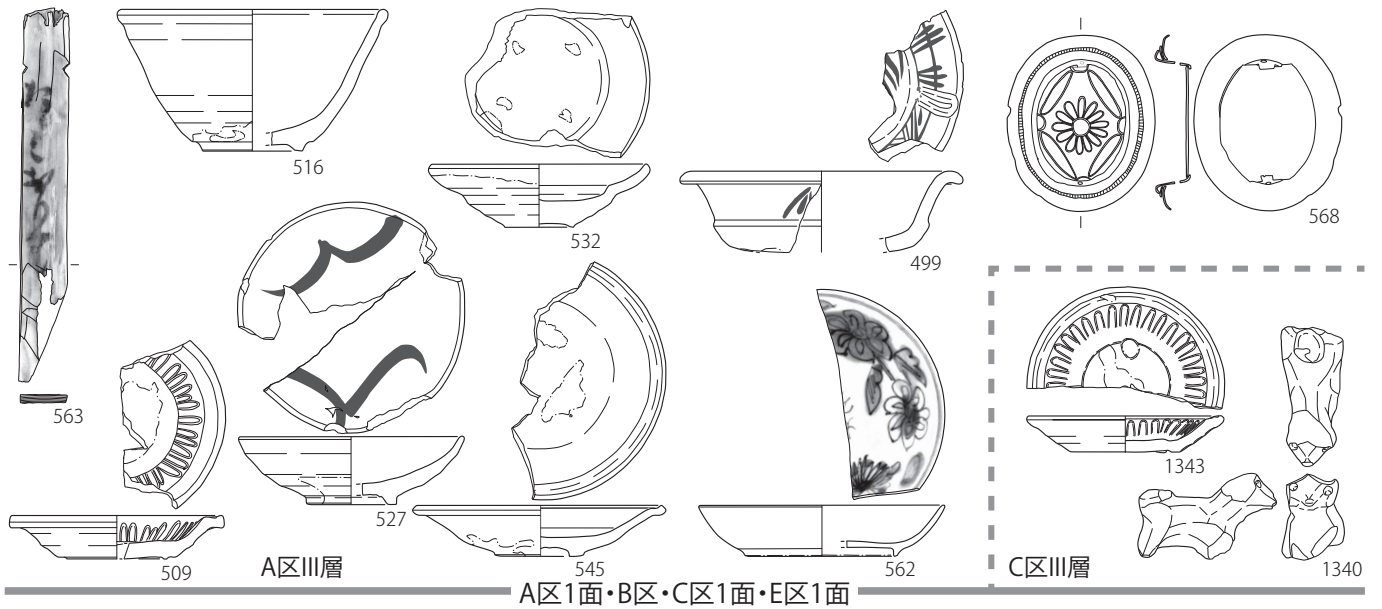


図10 包含層出土の主な遺物1

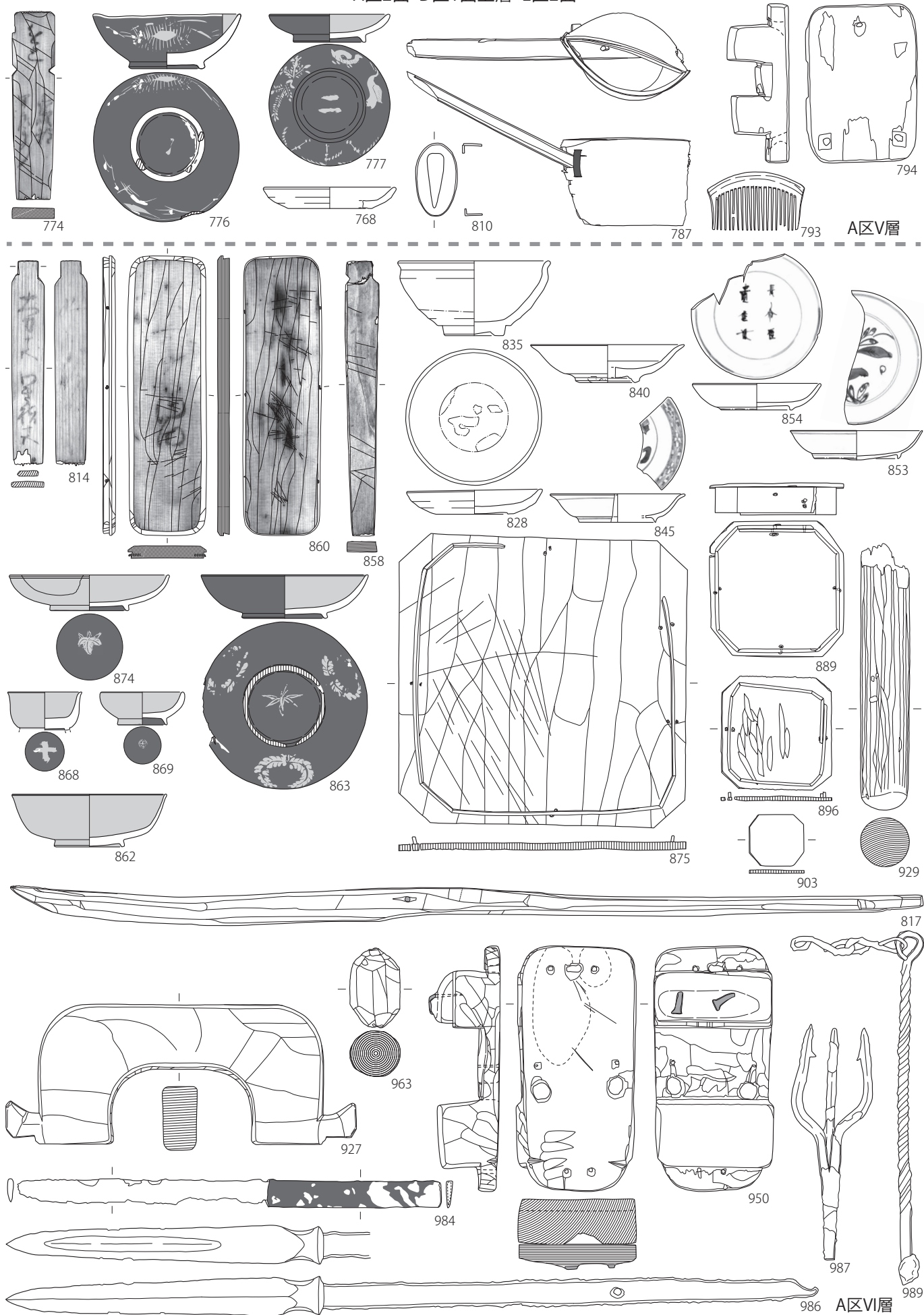
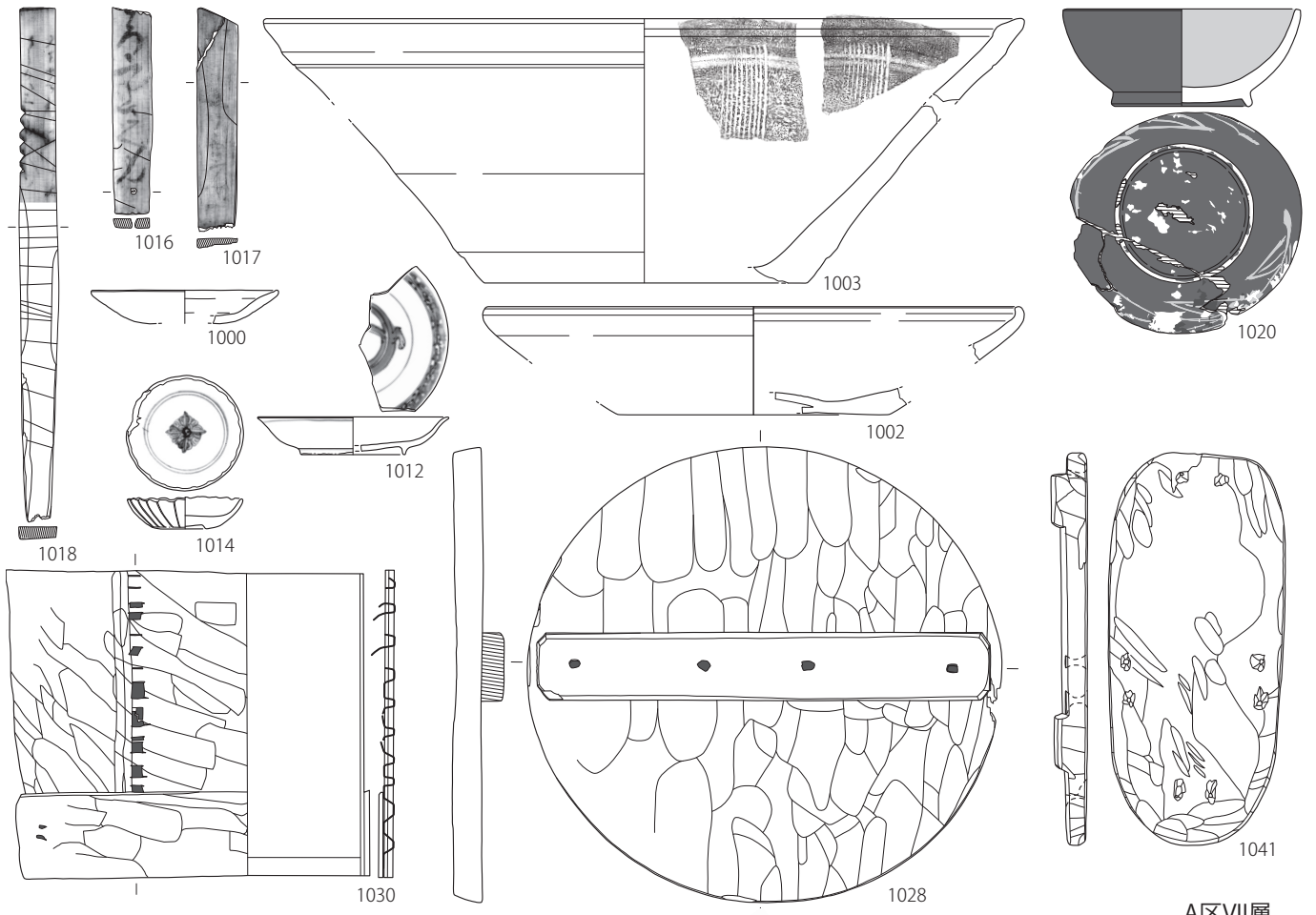
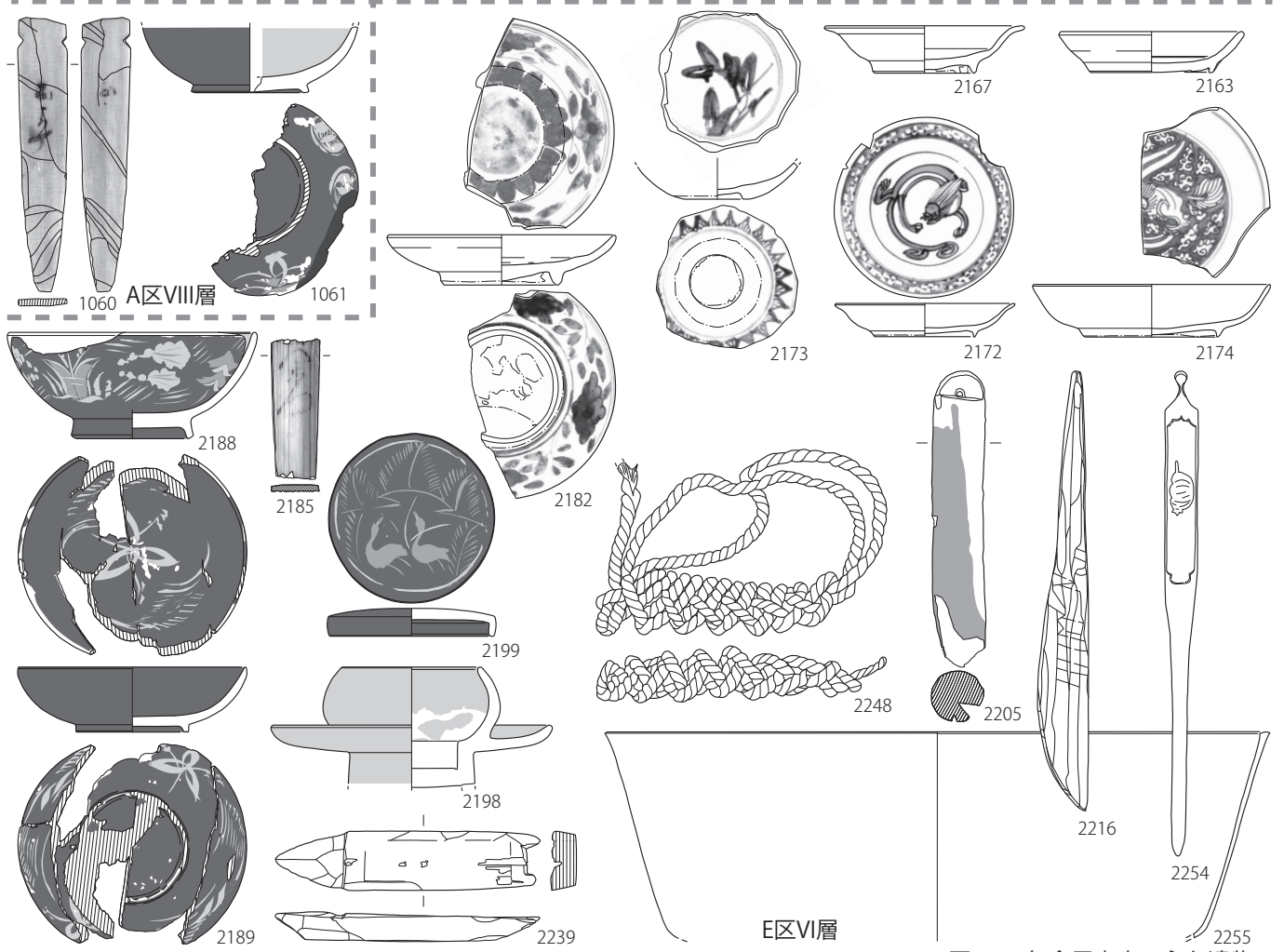


図 11 包含層出土の主な遺物 2



A区VII層



A区VIII層

E区VI層

図 12 包含層出土の主な遺物 3

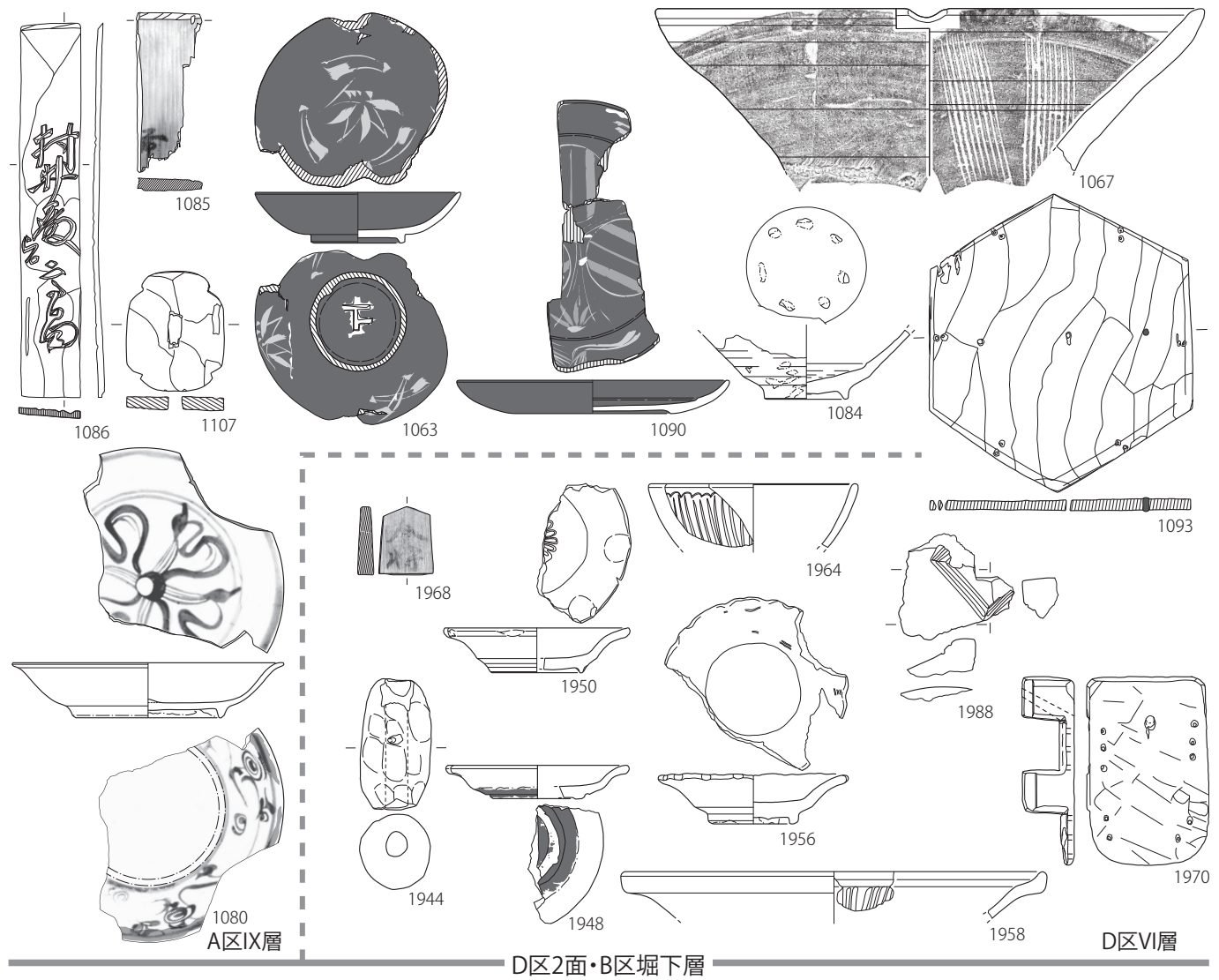
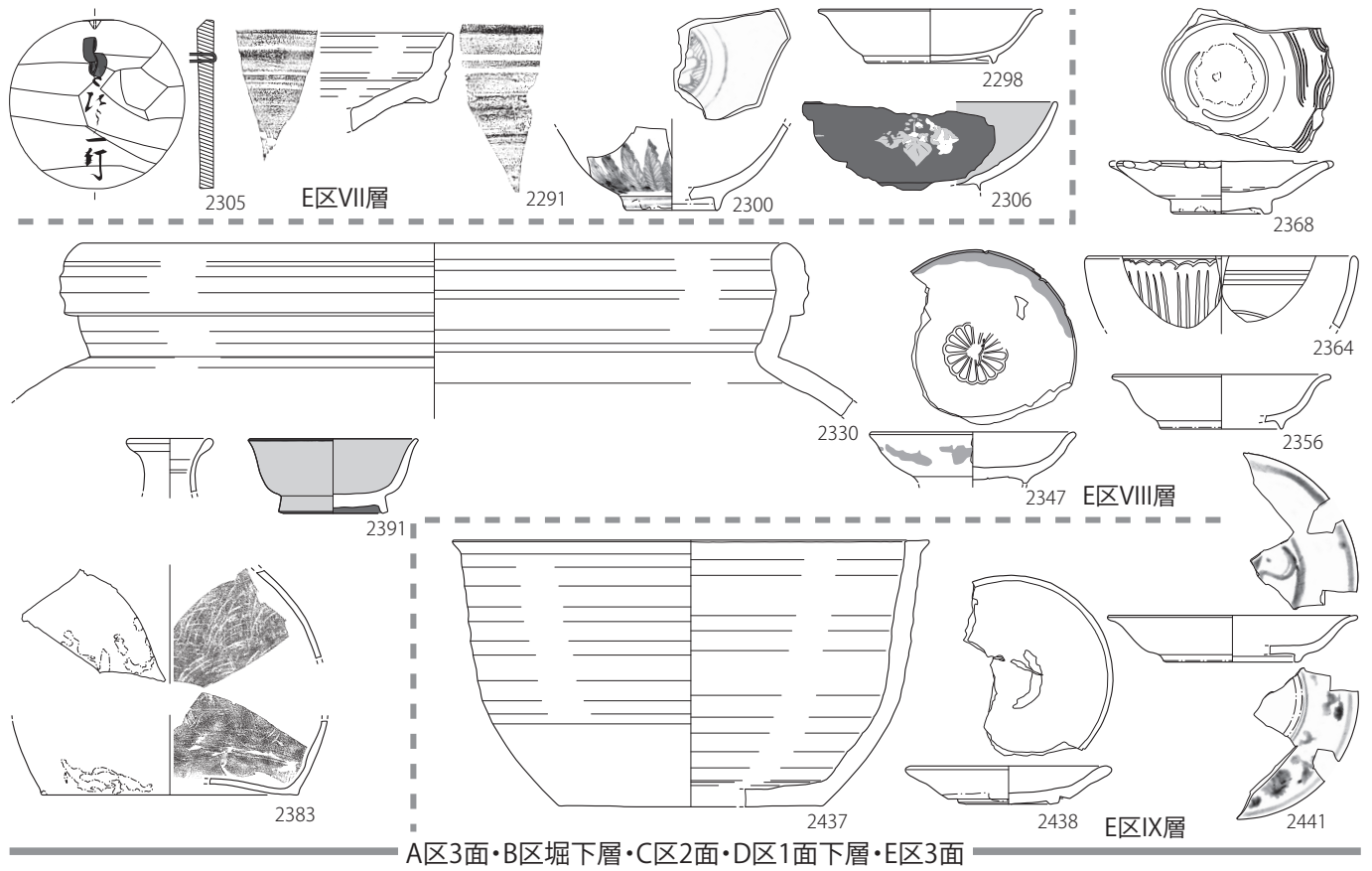


図 13 包含層出土の主な遺物 4

# 歴史紡ぐ石文化

日本遺産 福井と勝山の物語

笏谷石は西へ東へ  
山形

山形県の日本海に面した庄内地方には、北前船の寄港地として有名な酒田市や、庄内藩の城下町、鶴岡市があります。庄内地方と県庁所在地の山形市がある内陸地方は、最上川でつながってはいませんが、気候や風土は大きく異なっています。その違いは笏谷石の分布状況にも現れており、山形県内でも現れる笏谷石や出土品が分布しているのは庄内地方のみです。

山形県に笏谷石が本格的に搬入され始めるのは十七世紀初頭からです。当初は武家など限られた階層で使われていましたが、北前船の西回り航路が整備されると、米の帰り荷として積み込まれた大量の笏谷石が庄内地方にもたらされ、さまざまな場所で使われるようになりました。現在、庄内地方の寺社や古い町並みのあちこちで笏谷石を見かけることができます。

笏谷石の搬入が始まる以

## 庄内地方に残る伝世品



① 亀ヶ崎城主・志村光安の供養塔として建立された九重層塔＝山形県遊佐町の永泉寺で  
② 「四足鳥居」として芸術的価値も高く評価されている梶尾神社の石鳥居＝山形県鶴岡市で



前、戦国時代の庄内地方では酒田湊や広大な庄内平野を巡って、近隣の戦国大名の最上氏と上杉氏が覇権を争っていました。そうした

庄内を巡る争いの舞台の一つが、酒田湊に隣接して位置する亀ヶ崎城跡です。

亀ヶ崎城跡の発掘調査では、笏谷石製の方形石鉢と板状製品が出土しました。その他、木簡等の文字資料が数多く出土しています。



中でも注目されるのが、関ヶ原合戦直前の慶長五(一六〇〇)年七月、上杉方の志駄修理亮に鉄砲玉を送ったことを示す木簡と、合戦後に城主となった最上方の志村光安に肩衣(袖無し)の短い上衣で、武士の礼服を送った際に使われた木簡です。出土状況から、笏谷石製品は十七世紀初頭の最上氏の時代に属するものと考えられます。

庄内地方には、この出土品と同時期、江戸時代初頭の笏谷石の伝世品が二基残されています。

一つは酒田市の北に位置する遊佐町永泉寺の九重層塔です。前述の亀ヶ崎城主、志村光安の供養塔で、慶長十六年に建てられました。

もう一つが梶尾神社(鶴岡市)の石鳥居です。永泉寺の層塔と同じ年に建てられました。最上氏の家臣、下実秀らが寄進したものです。下氏はもともと上杉氏の家臣でしたが、関ヶ原合戦時に最上氏に降り家臣となりました。

この二つの笏谷石製品に共通するのは、最上義光配下の武将が、その造立に関わっていることです。関ヶ原合戦後、酒田湊を手に入れた最上氏が、当時流通し始めた流行の最先端である笏谷石を積極的に使ったことがわかります。

海に面していない内陸地方に本拠を置く最上氏にとって、全国に通じる湊を手に入れることは悲願でした。遠く海を渡って運ばれてくる笏谷石は、その願いがかなったことの象徴だったのかもしれない。(山形県埋蔵文化財センター・高桑登)

◇ 次回は二月十三日に、新潟県を紹介いたします。

学が  
月働育む  
ライフ  
水料理  
食健康  
撮る

文化